

# 安心安全な 情報システム環境の提供

## 第5分科会 Bグループ

### 1. 大学を取り巻く情報環境の変化

■大学における情報環境は、以前と比べて大きく変化してきている。

- ・ネットワーク(インターネット)を利用する事が当然となっている。
- ・学生、教職員の情報端末機器の利用も増えている。
- ・学内の各種業務(授業、履修登録など)がシステム化され、システムを使う事が必須となっている。



システムを使用する事が「当たり前」の  
環境になっている



多数の利用者が存在する事になり、予期せぬ利用状況と  
なっている可能性もあるのではないかと

### 2. 利用者の状況

■実際に、現場で起きている利用行為に関して、各校の状況を確認。

- ・システムのIDを貸し借りしている
- ・成績情報などの秘匿すべき情報について、比較的オープンな利用を行っている
- ・学生の個人情報等が、ブログやSNSに載ってしまっている
- ・USBメモリ/HDD等の外部デバイスに個人情的なデータを格納しながら、ぞんざいに扱っている(紛失、忘れ物等が日常茶飯事)
- ・ウイルス対策等を行っていない
- ・Winny等のファイル交換ソフトを使用している
- ・教員権限のPCを学生が利用している(ID/パスワードを共有している)
- ・ソフトウェアライセンスが適切に管理されていない
- ・教員用PCの自由な利用(学外への持ち出し、個人PCの接続)

### 3. システム運用への影響

■前述のような行為が継続された場合、大学・学生・教職員に対して、どのような影響が考えられるかを検討

- (1)情報の流出(紛失)
  - ⇒情報流出による志願者・入学者の減少(大学としての収入減)
  - ⇒マスコミ対策、謝罪対応等による費用の支出
  - ⇒対応のための職員稼働の増加(肉体的負荷、精神的苦痛、人件費の増加)
  - ⇒流出者本人の社会的地位の低下
- (2)情報の消失
  - ⇒事業継続の停止
  - ⇒復元のための作業コストの発生
- (3)機能の停止
  - ⇒事業継続の停止
- (4)システムの乗っ取り(破壊)
  - ⇒事業継続の停止
  - ⇒不適切な情報の発信



信頼、お金、時間の損失が発生する！

### 3. システム運用への影響

情報システム部門に対しては、  
信頼を確立し継続した大学運営を実現する  
「安心安全な情報システム環境の提供」  
が求められている。

### 4. 原因の追究

■想定される影響について原因の分析と分類を実施。

影響	原因	分類
情報の流出	・セキュリティ事故(意識の低さ) ・意図的な流出	・人的な問題
情報の消失	・災害 ・操作ミス ・意図的な破壊	・システム的な問題 ・人的な問題
機能の停止	・システムの不具合 ・システムの乗っ取り ・災害	・システム的な問題 ・人的な問題
システムの乗っ取り	・システム面での対策不足 ・セキュリティ事故(意識の低さ)	・システム的な問題 ・人的な問題

人的問題

- ・セキュリティポリシーがない。
- ・ルールが守られない。

システムの問題

- ・守るべき情報資産が整理できていない。
- ・影響範囲が明確化されていない。
- ・データの保全、ソフトウェアアップデート指針が確立されていない

## 5. 対策

### [対策(案)]

1. セキュリティ意識の向上  
⇒【人的問題対応】講習会、試験の実施(継続的な啓蒙活動)
2. 情報資産の把握・整理  
⇒【システム問題対応】情報資産の洗い出し、レベル分けによる整理  
⇒【システム問題対応】守るべき資産が何かを明確化し、必要・十分な対策を実施  
⇒【システム問題対応】重要情報のバックアップ体制の確保
3. 学生のニーズの把握  
⇒【人的問題対応】ルールが守られない理由を把握  
⇒【システム問題対応】運用として不便な点については、体系的なサービス見直しの検討を実施
4. セキュリティ対策の確実な実施(教員・学生まで)  
⇒組織として教職共同でトップダウンで実施できる体制の確立  
・経営層直下の情報セキュリティ委員会の設立など  
⇒情報セキュリティポリシー・ガイドラインを統合的に策定  
⇒不便になっても守るべき資産に対して、確実な実施

## 最後に

今後も、学生サービスの拡充や、技術革新により、大学における情報システムの利用は増え続けていく。

大学はその変化に対応し、社会の一員として責任ある対応を取らなければならない。

情報システム部門に所属する我々は、そのことを念頭に置いて「安心安全な情報システム環境の提供」に取り組まねばならない。